

2 市民アンケート、市民意見などからの課題

(1) 子どもが健やかに育つための課題

① 次世代の親の育成

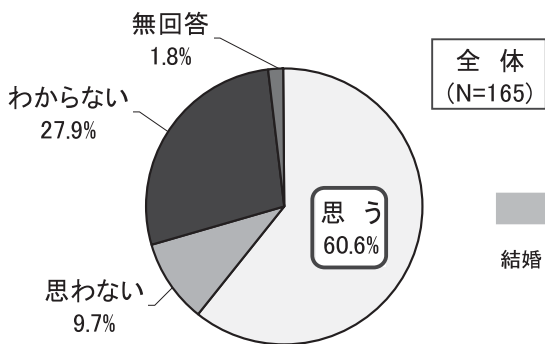
江別市の出生数は、平成20年度は681人でした。平成11年度では879人でしたので、この9年間で198人減少しており（p.14参照）、生まれる子どもそのものの減少や1世帯当たりの子ども数が減少しています。そのため、大人の世代と子どもとが接する機会や異年齢の子ども同士の交流が減少している傾向にあり、子どもが社会性を育む機会が少なくなってきました。

「良い事と悪い事の分別がつく年代の子どもでも平気で迷惑をかける場面を目にします」や「子どもや親の心が育っていない」という声が、市民アンケートにありました。子どもが小さい頃から相手を思いやる心をどのように培うか、そして親や地域社会がそのために今何をすべきかが課題となっています。

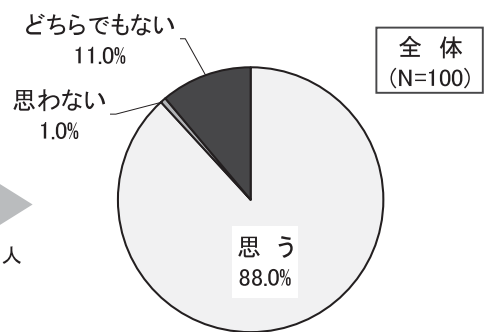
また、子どもが被害者となる事件や虐待、いじめのほか、不登校、ひきこもり、少年犯罪など子どもをとりまく様々な社会問題が深刻化しており、子どもが愛情豊かで人間的に調和のとれた大人に育ちにくい環境になってきています。

家庭はもとより、小さい頃から社会体験を行うなど企業を含めた社会全体で子どもの自立性や社会性を育み、子どもの健やかな成長を図ることが重要となっています。

将来結婚したいと思いますか（単位：％）



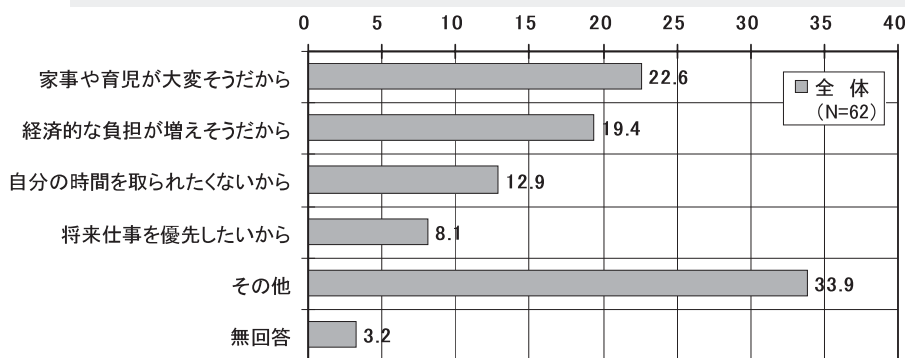
子どもをほしいと思いますか（単位：％）



結婚したいと思う人

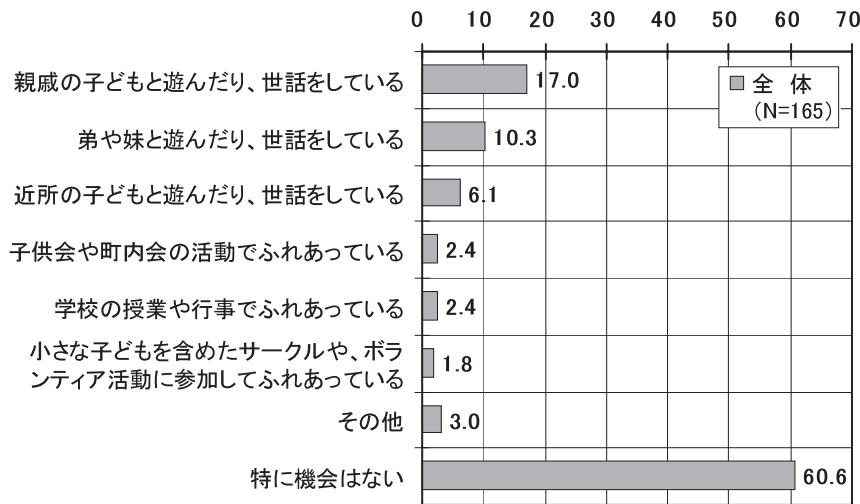
【資料】平成21年度中高生アンケート

将来結婚したいと「思わない」、「わからない」理由（単位：％）



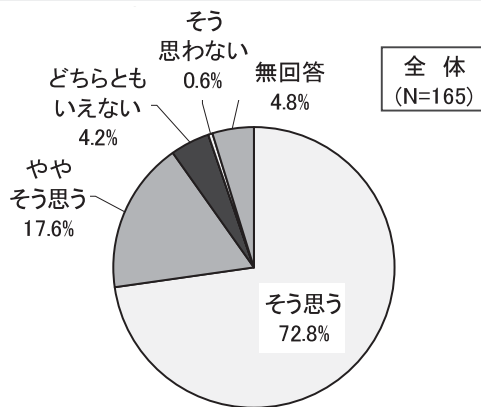
【資料】平成21年度中高生アンケート

乳幼児とふれあう機会がありますか（複数回答 単位：％）

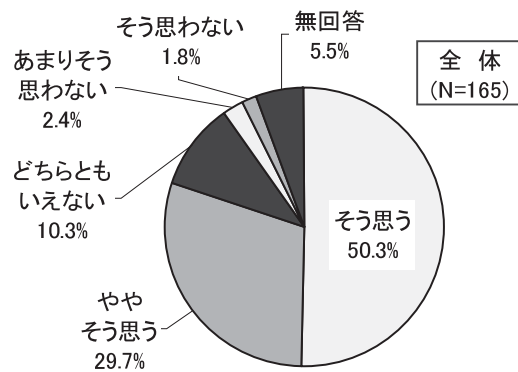


【資料】平成21年度中高生アンケート

子育ては、男女が協力して行うべき？（単位：％）



家事は、男女が協力して行うべき？（単位：％）



【資料】平成21年度中高生アンケート

② 子どもが健やかに育つための教育環境の整備

子どもにとって一日の生活の中心となる学校について、「校舎の耐震がとても心配です」という声が市民から上がっています。江別市内の小中学校の校舎は建築年の古いものが多く、学校施設の改修が今後も課題となっています。

また、地域の人間関係が希薄となっているなど家庭を取り巻く環境や子どもを取り巻く環境が急速に変化していることから、幼児期から社会性を身につける教育支援が必要とされています。

次代を担う子どもが安心して生活できる環境のもとで、子どもの発達段階に応じて健やかに成長できるように、学校教育と社会教育の両面から教育環境を整備することが求められています。

③ 子どもの権利意識の醸成

育児放棄や暴行、虐待などといった事件が、全国的に起こっています。子どもの本来持っている権利（生きる権利、育つ権利、守られる権利、参加する権利）が侵害されることなく保障されるよう、子どもの権利条約の普及、子どもの意見が反映される社会づくりなど、子どもが子どもとして育つ権利の確保を図ることが必要です。

まとめ

★ 子どもが健やかに育つための課題 ★

- ① 子どもの発達段階に応じた教育環境の整備が必要である。
 - ・子どものときから社会性を育むことの必要性和親自身の教育
 - ・幼児期からの教育と学校教育の充実
 - ・子どもが活動する場の確保と整備
- ② そのような環境の中で、子どもとして育つ権利を子どもが本来持っているという自覚を、社会全体で共有することが必要である。
- ③ 子どもが持っている権利が侵害されることなく、安全に生活できる環境の整備が必要である。

「子どもが笑顔で育つ」まちづくり

（2）親が安心して子育てするための課題

① 職場環境の改善

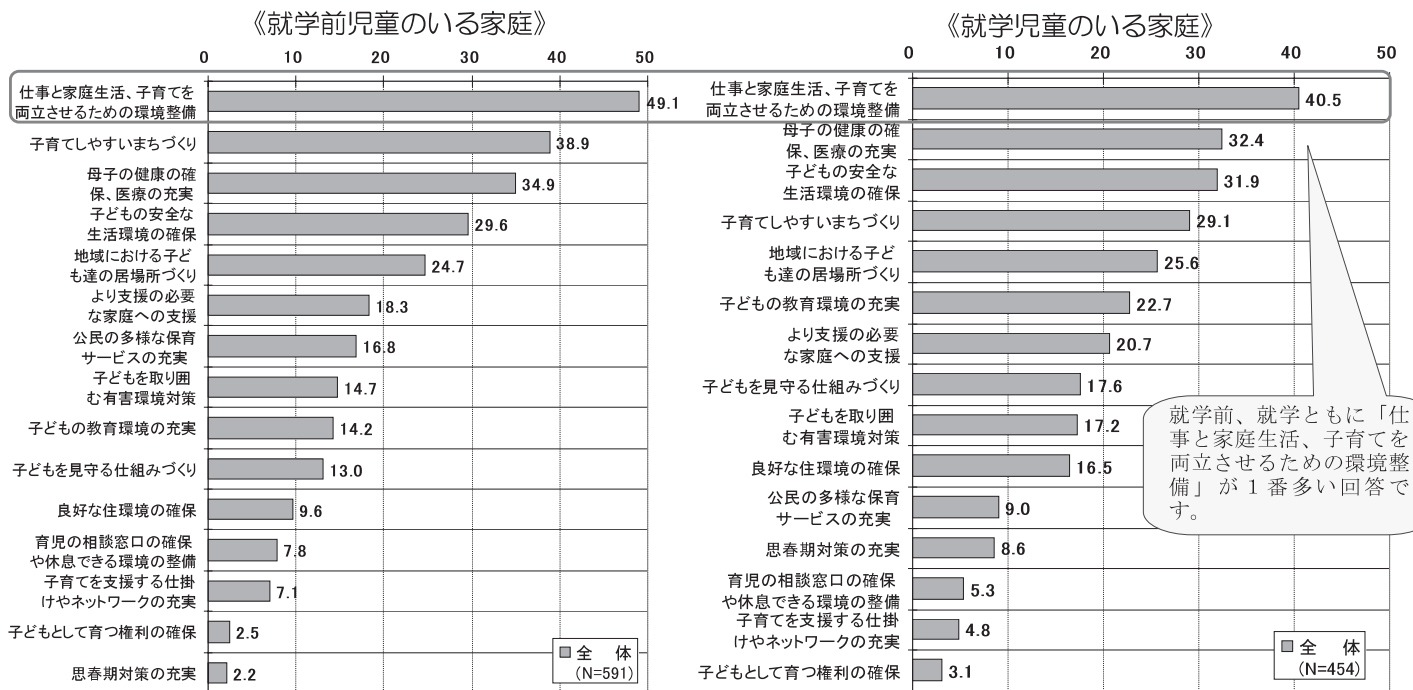
「子どもを育てている家庭への直接的支援も大切だが、子どもを社会で育てるという意識が企業の中に根づかない限り、子育ては窮屈なもの」、あるいは「子どもが出来ると職を失う不安感」という市民からの意見のとおり、子育ては、企業を含めた社会全体で行うものという意識が薄いため、両親が子育てと仕事を両立させていくことが困難な状況が存在しています。そのため、市民アンケートにおいても、行政が積極的に行うべき子育て支援として、就学前児童のいる家庭と就学児童のいる家庭の両方に共通して、「仕事と家庭生活、子育てを両立させるための環境整備」が1番多い回答でした。

また、仕事と家庭生活を両立するために、就学前から就学期にわたって子どもを安心して預けられる保育サービス（※注）の充実が求められています。

《用語解説》※注 保育サービス

本計画の中では、就学前から就学期にかけての保育園の通常保育、一時預かり事業、そして学童保育など、乳幼児や児童を保護し育てるサービス全般に関して表現しています。

行政が積極的に行ってほしい子育て支援について（複数回答 単位：％）



【資料】H21 市民ニーズ調査

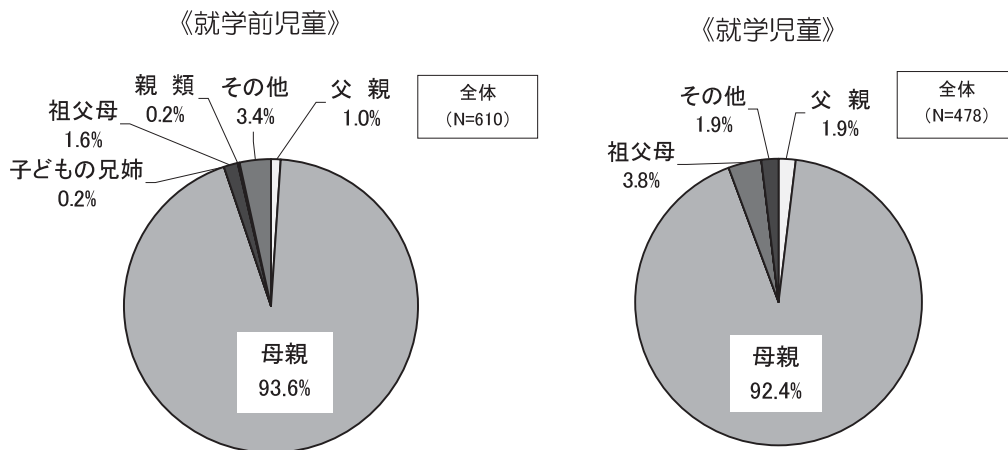
就学前、就学ともに「仕事と家庭生活、子育てを両立させるための環境整備」が1番多い回答です。

② 男女で子育てできる環境の整備

市民アンケートの結果を見ると、主に児童の世話をしているのが圧倒的に「母親」（90%以上）であり、母親が働いていない理由の1番目として「子育てしながら働ける適当な仕事、職場がないから」という回答があります。そして、「子どもを置いて外出できない」という回答が、就学前児童のいる家庭と就学児童のいる家庭の両方ともに2番目に多い結果となっています。これらを見ると、女性が外で働きたくても、就労と子育てが両立できていない状況が見られ、子育ての負担が母親に集中していることがうかがえます。

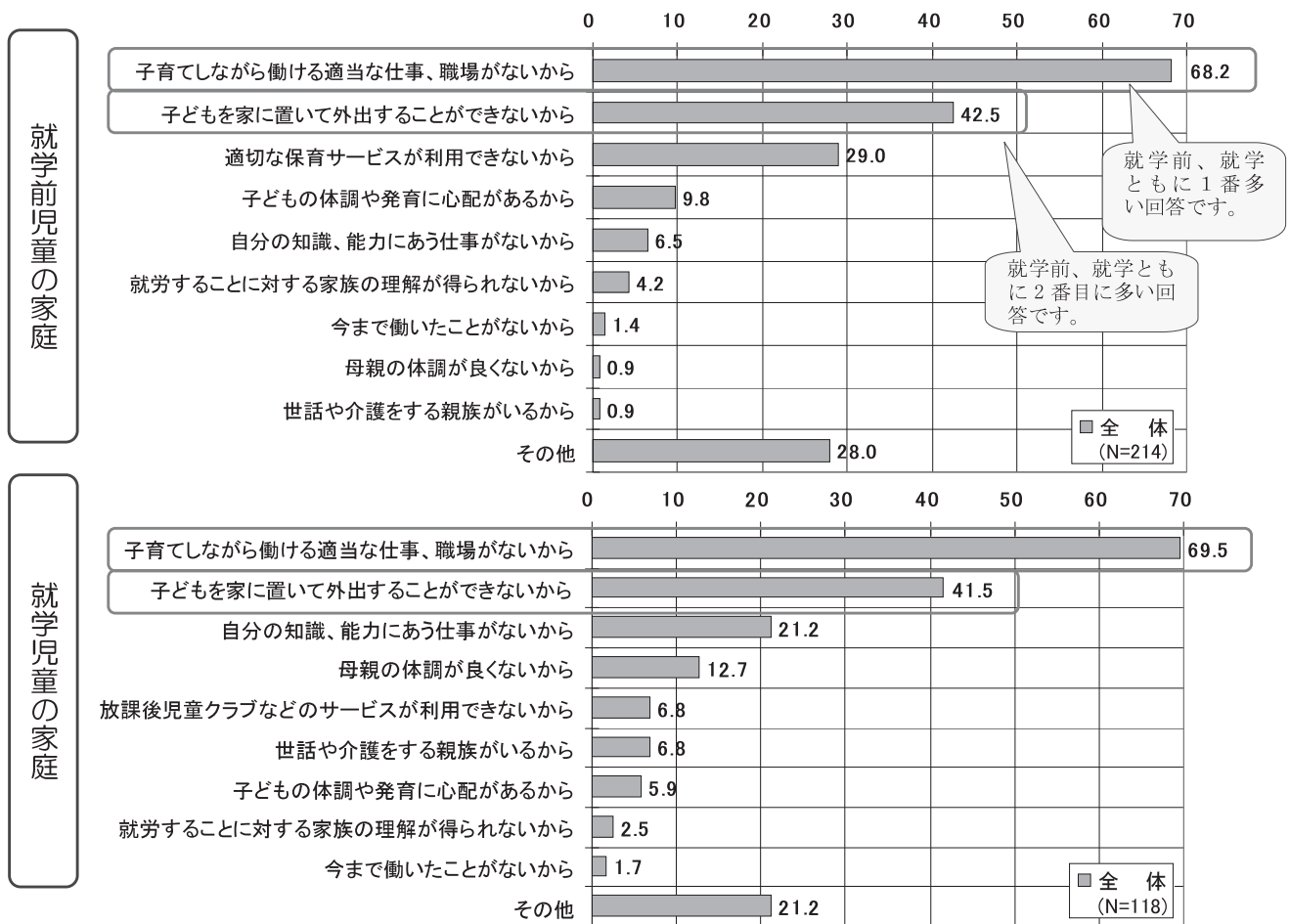
一番の相談相手でもあり、共同で子育てを行う「配偶者・パートナー」の関わりを見つめ直し、とりわけ男性が子育てに参加できるように、意識改革や仕事と生活のバランスがとれるように働き方を見直すなど、男女で協力して子育てできる環境整備が求められています。

主に児童の世話をしている人



【資料】平成21年度市民ニーズ調査

母親の働いていない理由（複数回答 単位：％）



【資料】平成21年度市民ニーズ調査

③ 育児ストレスの軽減

子育て中の母親は、身体的負担や経済的負担以外にも、自分の時間が持てない、育児の相談をする相手が身のまわりにはいないなどの精神的負担や不安、ストレスが多くなっています。「行政に訴えたり、地域の支援サービスを利用したい、利用しようという意欲さえ、その発想さえ持てない程、息詰まり・行き詰まる若い母親達が潜在的に現に生活していることを知っていただきたい」という若い母親を気遣う市民アンケートの回答があるように、地域での人間関係が希薄である近年では、この傾向が特に強いようです。

「ママ友達」が作りやすい子育てサロン(※注)など、母親が気軽に相談できる場やイベントを設けたり、子どもを家族・親族以外の人に預けてリフレッシュできたりするような、子育て中の親の不安やストレスを軽減させる取り組みが求められています。

《用語解説》※注 子育てサロン

0歳児～就学前の子どもとその保護者が、他の家庭の保護者や地域ボランティアと自由に交流し、遊べる場です。子育ての不安や悩みを持った保護者が気軽に集まって、育児に関する相談や情報交換ができる場として活用されています。

④ 親子の健康の確保

子どもの医療費の負担軽減については、市民の声が多数寄せられています。

また、休日・夜間診療を含む小児医療の充実や栄養バランスのとれた食生活の改善など、保健・医療が連携して子どもの健康確保を守るとともに、妊娠、出産、乳幼児期という一連の流れにおける母子の健康の確保、そして生活習慣病の予防の取り組みなど、子育て中の親の健康の確保に関してもサポートが必要となっています。

まとめ

★ 親が安心して子育てするための課題 ★

- ① 男性が子育てに参加できるように、家庭だけでなく社会全体で意識改革を行うことや、仕事と生活のバランスがとれるような働き方への見直しなど、男女で子育てできる環境整備が必要である。
- ② 子育て中の母親は、身体的な負担以外にも、精神的な負担や経済的な負担などで、不安やストレスが多いため、気軽に相談できる体制など、これらを軽減することが必要である。
- ③ 休日・夜間診療などの小児医療の充実や医療費の負担軽減、また、しっかりとした食事の摂取による子どもの健康の確保が求められている。子どもの健康の確保とともに、子育てをする親の健康の確保も併せて必要である。

「安心して子どもを生き育てることができる」まちづくり

(3) 地域で子育て世帯を支援するための課題

① 地域で子育てに主体的に関わる仕組みづくり

江別市でも核家族化の影響や自治会などの地域との交流機会の減少により、子どもも母親も地域住民と接する機会が少なくなっている傾向にあります。アンケートの中にも「孤立してしまう若いママがいなくなるように、こまめな声かけや場所の確保」をしてほしいという意見が寄せられており、子育てに関して気軽に相談できる場が地域の中に求められています。

地域住民による子育て活動の支援、子育て家庭の見守りを図ることが重要であることから、江別市内の子育て経験の豊富な住民や、仕事を退職して比較的時間に余裕のある住民といった子育てを支援してくれる人材を十分に活用し、地域全体で子育てする意識の醸成、子育てボランティア・子育て支援団体の育成など、地域の住民による子育て支援の人材づくりや住民同士の連携を図る必要があります。

また、子どもが生活する地域の住民や団体、そして事業者との連携により、子どもを取り巻く有害な環境への対策の充実を図る必要もあります。子育て世帯と地域住民とが子育て情報を共有し、協力して地域の見回り活動を行うなど、子どもを見守る仕組みを確立する必要もあります。

まとめ

★ 地域全体が子育て世帯を支援するための課題 ★

- ① 地域住民（自治会、PTAなど）を含めた地域社会全体で子育て世帯を支え、子どもを見守り、育てていくような仕組みづくりと意識醸成が必要である。
- ② 子どもが日々安心して暮らせるように、有害な環境に対する地域全体（地域住民、関係業界など）での取り組みが必要である。

「地域で子どもを育てる」まちづくり

(4) 多様なニーズに対応した保育サービスなどの提供のための課題

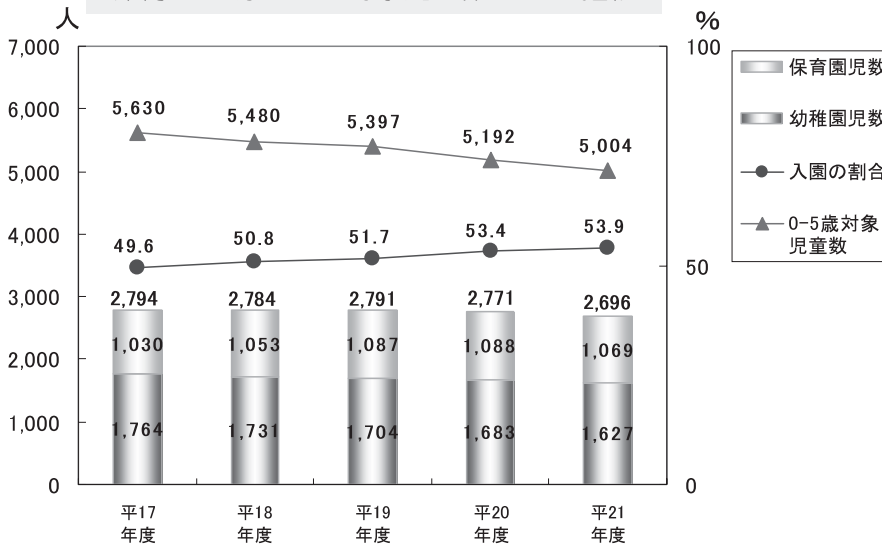
① 多様な保育サービスなどの提供と民間活力の活用

現在、就学前児童の5割強の子どもが保育園や幼稚園に入園し、4、5歳児では9割を超える状況になっています。

また、保護者の就労形態の多様化、勤務時間の増加などにより、延長保育、一時預かり、休日保育、障がい児保育などの特別保育の実施や在宅者に対する子育て相談、親子による遊びの場の提供などの子育て支援センター事業なども実施しています。

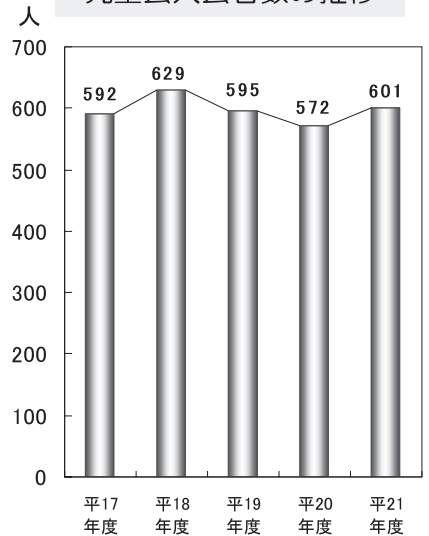
一時預かり、病児・病後児保育については要望が多い状況にあり、ファミリーサポート事業や保育園の建替計画など民間活力の導入も含め、今後とも多様な保育サービスの提供を図る必要があります。

保育園・幼稚園・対象児童数などの推移



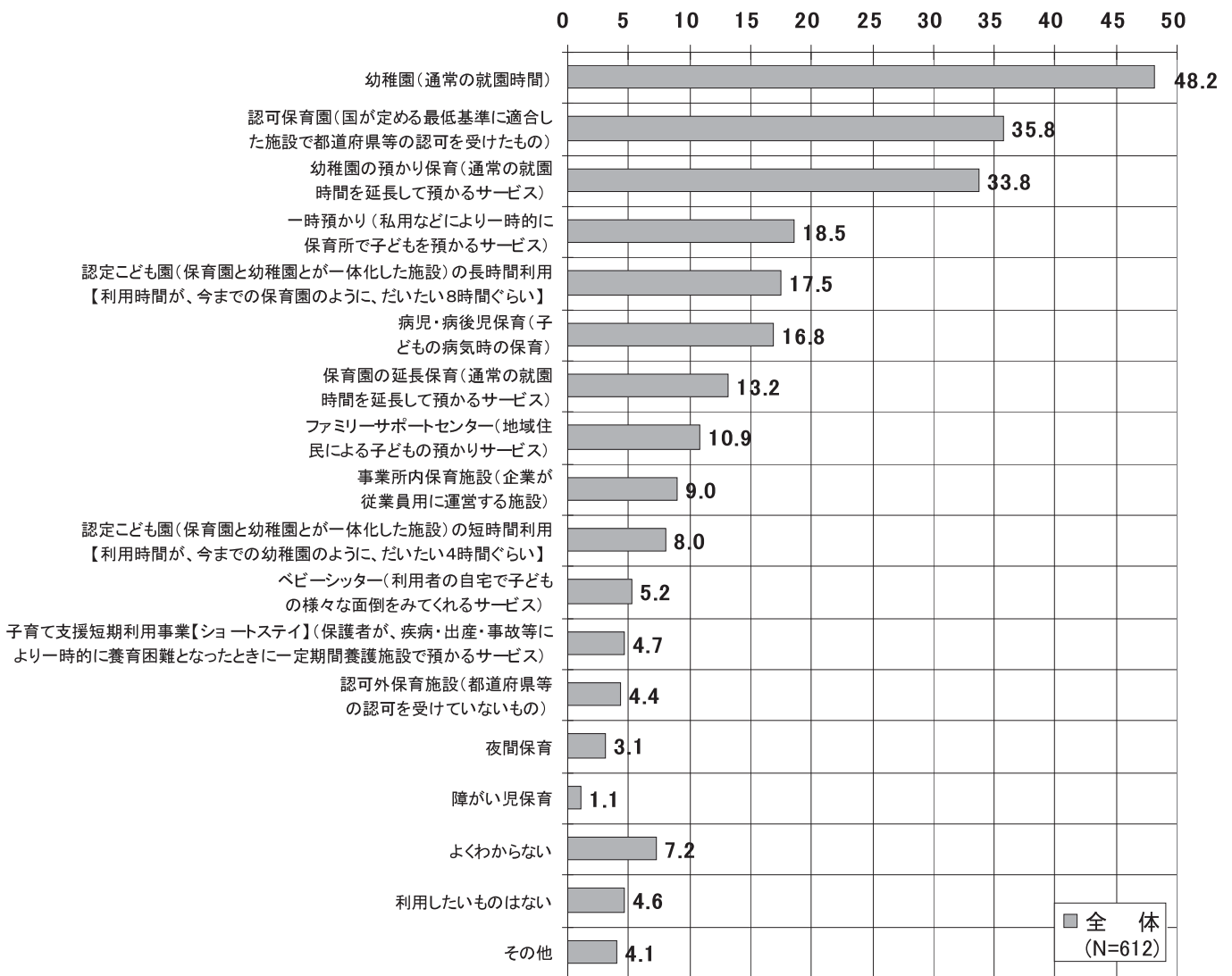
【資料】住民基本台帳、保育課・教育委員会調べ

児童会入会者数の推移



【資料】子ども家庭課調べ

今後利用したい保育サービス《就学前児童》(複数回答 単位：%)



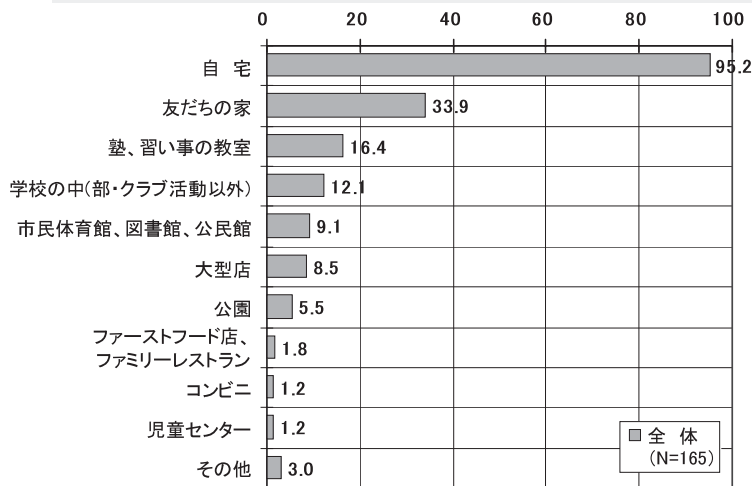
【資料】平成21年度市民ニーズ調査

② 既存施設の有効活用

「子育てサロンを増やしてほしい」、「学校を開放するとか、親が働いていても安心の出来る環境作り」をしてほしい、あるいは「放課後の居場所作り」をしてほしいという声が市民から多くあり、子育てを支援するための「場所」の充実が求められています。

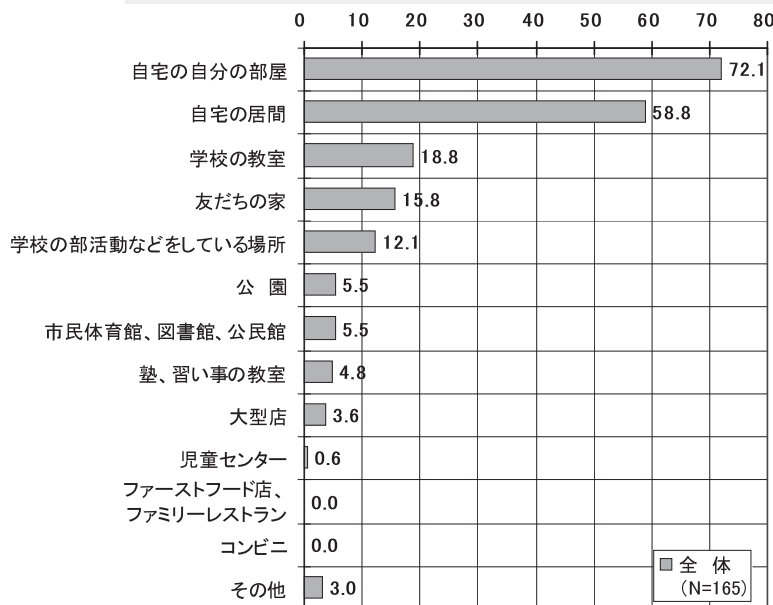
厳しい財政状況のもとで子育て支援施策を推進するため、児童センターや公民館、小学校の余裕教室など地域にある公共施設などを活用し、子どもや親の生活圏で利用しやすい居場所づくり、情報交換の場づくりを今後とも図る必要があります。

放課後を主にどこで過ごしていますか（複数回答 単位：％）



【資料】平成21年度中高生アンケート

居心地のよい場所はどこですか（複数回答 単位：％）



【資料】平成21年度中高生アンケート

③ 配慮が必要な家庭への支援

すべての子育て家庭が安心して子育てできるように、とりわけひとり親家庭や障がい児のいる家庭について、その自立の支援や障がい児施策の充実などが必要であるとともに、我が子への虐待やDV（※注）の問題が顕在化していることから、児童虐待やDV防止体制の充実が必要です。

なお、医療費を始めとした子育てに関する経済的負担の軽減については、市民アンケートなどで多くの意見が寄せられており、子育て家庭への経済的支援と北海道、国への制度改善要望が求められています。

《用語解説》※注 DV（ドメスティック・バイオレンス）

夫婦間、恋愛関係その他の親密な関係にある又はあった男女間における身体的、経済的又は精神的な苦痛を与える暴力的行為。「児童虐待の防止等に関する法律」では、児童虐待の定義にDVが含められており、DVが起こる家庭で子どもが育つことは、子どもの心に深い傷を残し、子どもたちの将来をも傷つけることとなります。

まとめ

★ 多様なニーズに対応した保育サービスなどの提供のための課題 ★

- ① 親の就業環境や生活環境の変化などに伴い、一時預かり、延長保育、休日保育、病児・病後児保育、放課後児童会・児童クラブなど、様々なニーズに対応した保育サービス・子育て支援サービスの充実及び知識・情報の共有が必要である。
- ② 厳しい財政状況下では、余裕教室の利用など、既存施設の有効利用が必要である。
- ③ ひとり親家庭や障がい児のいる家庭など、すべての家庭が安心して子育てできる施策が必要である。また、児童虐待やDVの防止体制が必要である。
- ④ 厳しい経済状況の中、子育てに関する経済的な支援が必要である。

「子どもと親、地域の子育てを支援する」まちづくり

(5) 子育てしやすいまちづくりのための課題

① 誰もが子育てしやすいまちづくり

子育て家庭が地域で安心して暮らすためには、公共施設の整備など子育てしやすいまちづくりが重要です。

特に安全な住まいの確保は子育ての基本であり、住宅に困窮している世帯向けの低廉で良質な公的賃貸住宅の確保など、子育てに配慮した住環境の確保が必要です。

また、「一歩外へ出た時の安心、安全がほしい」という市民からの声のように、子どもや妊婦、そして子どもを連れた親が安全に外出できるためには、道路・公園、公共建築物のバリアフリー化や公共交通機関での安全性の確保が重要であり、子育てに配慮した都市空間の形成が必要です。

まとめ

★ 子育てしやすいまちづくりのための課題 ★

- ① 子どもを安心して育てられるように配慮された住宅、住環境の整備が必要である。
- ② 子育て家庭が、日々快適に暮らせるようなユニバーサルデザイン（※注）に配慮されたまちづくりや公共施設の整備が必要である。

「子育て家庭が快適に暮らせる」まちづくり

《用語解説》※注 ユニバーサルデザイン

文化・言語・国籍の違い、老若男女といった差異、障がい・能力の如何を問わずに利用することができる施設・製品・情報の設計のこと。